

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871100984		
法人名	株式会社はーとふるセゾン		
事業所名	はーとふるセゾン宝塚		
所在地	宝塚市中筋5丁目17-17		
自己評価作成日	平成23年1月16日	評価結果市町村受理日	平成24年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブナルク兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	平成24年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームとして認知症の方の安心・安全の介護はもちろん、暮らしの場であることを意識し、アットホームな環境のなかで一人ひとりが笑顔で暮らしていただけるよう努めています。特に季節を感じる暮らしを大切にしています。四季折々の行事、習わし、季節の花や飾りつけ、季節の食材を使った食事。又豊富なレクリエーションや活動の活性化に努めています。介護計画はご本人の言葉にならない思いや意向の理解に努め、ケアカンファレンス実施、情報の共有、連携等チームケアを高めお一人おひとりにていねいに関わり笑顔で接することを大切にしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

総ての入居者に対し家庭生活の延長のような雰囲気を感じていただけるよう気配り、対応を全職員が常に心掛けてるように感じられた。又、一方入居者家族のアンケートにも多くの方々が私たちが感じたように率直な回答がされている。事業所が特に力を入れている点のうち入居者の「心のうち」言葉にならない言葉を察知するような気の使い方、配慮は今後もたえず継続されることが望まれます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	《その人らしく この町に暮らす 一笑顔ー》の理念は年度始めの全体職員会議で確認し、ユニット毎に目標を立て実践につなげている。	理念を具体化すべく、ユニットごとに目標(個別ケアの充実、運動を通しての関わり、その方に寄り添い共に時間を過ごす)を掲げて実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的なつながりとまではいかないが、地域の祭り、等の行事への参加、保育園との交流会、を行っている。毎年お庭の桜が咲く頃、桜の下でお茶会を開催して下さるお家もある。今年度は地域の民生委員の方が運営推進会議に加わり、地域の方に来ていただく交流会を開催した。	地域の祭り(だんじり等)や保育園の運動会に利用者と共に参加して交流している。事業所の10周年記念に地域の方に参加してもらい交流会(事業所見学・介護相談等)を開催した。これを機に、今後、休日のディサービスのスペースを活用する等して地域の方との交流会を企画している。	地域の方とのつながりをより深めて行く為に、交流会を継続して開催されることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や相談対応時は、相談を受けたり、質問や困っておられる事に、培った認知症の人への理解や支援の方法を活かして情報提供している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。会議では、活動や評価結果等の報告や活動計画について意見をいただいている。会議の内容はリーダーミーティングで話しあったり、職員に紙面で報告しサービス向上に活かしている。	家族一名、ケアプランセンター介護支援専門員、地域包括支援センター職員、市役所職員、地域民生委員の参加の下、2ヶ月に1回開催している。今年度より地域の民生委員が会議に参加してくれたことにより、地域との交流会の開催が実現できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員には、運営推進会議に出席してもらい、事業所の実情やケアサービスの取り組み状況を伝えている。	市の職員には、運営推進会議に出席してもらい、事業所の実情やケアサービスの取組みを伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はデイサービスとの併設ということもあり、オートロックになっている。転倒・転落防止のため安全ベルト、ベットの柵等使用している方がいるが、ミーティングで見直しをしながら出来るだけ見守りで対応している。	転倒・転落防止のため、安全ベルトを使用されている方(一名)がおられるが、見直しをしながら、出来るだけ見守りで対応するように努めている。玄関はオートロックになっているが、事業所内の1、2階はエレベーターで自由に移動できる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が見過ごされることはない。更衣や入浴時には外傷等の身体異変に注意し、観察している。	今年度は、全体会議で「ことばの虐待」についての勉強会を行った。事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払っている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のパンフレットを置き情報提供が出来るようにしている。利用者27名のうち5人の方が成年後見制度を利用している	利用者5名が成年後見制度を利用している。家族や知人からの成年後見制度利用の相談に乗り、活用できるように支援している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、重要事項説明書に沿って説明し、困っておられることや質問には十分な説明をこころがけ、理解・納得していただけるようにしている	契約の締結や改定の際は、不安や疑問に十分な説明を心掛け、理解、納得してもらうようにしている。改定の際には、家族会でも説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、介護相談員の受け入れ、運営推進会議、家族会等で意見をお聞きできるようにしていると、日々のかかわりの中での利用者の要望やご家族の来訪時の会話等は運営に反映させている	ご家族には訪問時や、年2回開催される家族会や運営推進会議で意見や要望を聞いて運営に反映させている。ご家族へのアンケートを、2年に1回実施し、運営やケア計画に活かしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見提案は月に1度開催するリーダーミーティングで聞き、管理者から代表者に報告している。	月に1度開催するリーダーミーティングで、職員の意見を聞いて、運営に反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の自主性を尊重しやりがいを持って働けるようにしている。職員有給休暇を取りやすいよう職員配置をしている。取得した資格に応じて手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時、経験に応じた研修を実施。2ヶ月に1回社内勉強会を実施。外部研修の情報を提供し積極的に受講を支援している。認知症研修についても計画作成担当者のみならず順次受講できるよう申し込んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宝塚市介護保険事業者協会へ加入、会議のテーマや研修に応じて管理者や職員を参加させている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談や入居前に、可能ならばご本人にも来ていただいたり、ご自宅等に訪問して話を聞き、少しでも不安を少なくして入居していただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、アセスメントシートを利用しながら十分話を聞くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、本人の状態等をよく聞き、必要ならばグループホーム外のサービスや社会資源等の情報を提供している。多くの場合すぐの入居には応えられないので、必要に応じて介護サービスの情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事盛りつけ、シーツはぎ、洗濯物たたみ等、出来ることはして頂いたり、一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の便りでご本人の様子を伝えている。又、ご家族来所時はご本人の様子を伝えたり、話をするようにしている。受診や外出等ご家族に協力していただいている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの習い事に続けて通っておられる方、同窓会への出席、手紙のやりとりを望まれる方の支援をしている。以前から通っていた病院や美容院へ家族の協力を得て行かれる方もある。友人等の面会には又来ていただけるようお願いしている。	入居前からの習い事の為の外出、同窓会への出席、以前から通っていた病院や美容院等への外出等を家族の協力の下、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の気質、認知症のレベル、相性等を考えて食事席を決めている。お茶の時間には利用者同士が話せるような話題を提供したりしている。関係が深まる事もあるが、利用者同士の関係は難しいこともあるので、トラブルにならないよう職員が間に入るようにしている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居後の施設や病院へ面会やお見舞いに行ったりしている。退居された方のご家族が来所して下さることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、本人や家族より生活歴や希望を常に聴いている。困難な方に関しては、日々の関わりの中で表情やふとした発言、つぶやきから思いを汲み取るよう、職員間で話し合い取り組んでいる。	「一人ひとりの思いをくみ取った個別援助の充実」は今年度の事業計画において目標の一つに掲げられている。本人や家族との日々の関わりの中で、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅を訪問したり、本人やご家族からお聞きし、これまでの暮らしについての情報はできるだけ多く把握するようにしている。了解を得て在宅時のケアマネージャーからも情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日々の関わりの中で観察し、記録や申し送りで情報を共有し把握している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族にはアンケートや面談にて意向を聴き、職員間でカンファレンスをして介護計画を作成している。シート利用。定期的(年1回)、及び変化に応じて介護計画を作成している。	家族や本人にアンケートや面談にて意向をきいてから、職員間でカンファレンスして介護計画を作成している。センター方式のシートを利用し、定期的(年1回)と変化に応じて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録シートや連絡帳・申し送り、必要に応じて別途記録シートを作成、介護計画を実践し職員間で情報を共有して、定期的及び変化に応じて開催するカンファレンスでの介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設デイサービス利用(音楽療法、歌の会等)や訪問リハビリ利用支援、家族が対応困難な場合の通院介助、衣類や日用品の購入等要望はできるだけ柔軟に対応している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で開催される催しへの参加、個別の新聞配達、美容院や商店、喫茶店、食堂の利用、又、ボランティアグループや個人ボランティアを受け入れ豊かな暮らしを楽しめるようにしている、		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望するかかりつけ医に受診していただいている。特に希望の無い方は往診対応の内科医を紹介、月2回の往診、臨時往診、24時間の連絡体制をとっている。	本人及び家族の希望でかかりつけ医に受診している方は二人おられる。受診時の同行は家族となっているが、家族が対応困難な場合は通院介助をしている。その他の方には、往診対応で適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職として看護師は常駐していないが准看護師資格の職員がいる。看護師に相談したり直接医師に連絡し適切な対応ができるよう支援している。日中は併設デイサービスの看護師の応援も得られる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、かかりつけ医の診療情報と介護情報を書面と口頭で情報提供している。入院中は面会にて様子を聞いたり情報交換をしている、又退院に向けてカンファレンスを開催することもある。提携病院で開催される交流会に参加したり、情報誌を送っていただいたり関係作りを行っている。		
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については入居時に説明している。終末期については状態に応じて家族と話し合っている。又、『看取りの指針』を策定し対応できるようにしている。	入居時に、重度化した場合について説明している。「看取りの指針」を策定し、主治医や家族と話し合いを持ちながら終末期に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命訓練は入職時実施している。以降不定期ながらも受講できるようにしているが、救急救命実践力の不安も多い。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署と共に昼や夜を想定して消火・通報・非難訓練を行っている。地域との協力体制は特にない。消防署員に来ていただき防災安全対策の研修を行った。昨年スプリンクラーを設置した。	年2回、消防署の協力の下、昼と夜を想定して、火災訓練を行った。地域には火災訓練のお知らせをしている。消防署員による防災安全対策の研修を行った。昨年3月にスプリンクラーが設置された。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮、人格を尊重し、一人ひとりの理解力を考慮しての言葉かけや対応をしている。トイレの声かけや食事時のエプロン着用など気をつけている。家庭的な雰囲気は大切にしながらも馴れ合いの言葉にならないよう気をつけている。	人格とプライバシーを尊重したさりげないトイレ誘導や、食事の時のエプロンに気をつかうなど細やかな心遣いに努めている。言葉かけは、家庭的な雰囲気を大切にしながら、馴れ合いの言葉にならないように気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中でしたいこと、行きたい所や食べたいものなど聞くようにしている。思いや希望を表出できる方ばかりではないので、一人ひとりの能力に応じて、答えやすいような声かけをして、表情をよみとる等して、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、心身の状態に合わせての食事時間や居室配膳等できる限り本人の意向やペースを大切に支援しているが、外出や入浴等希望に添えないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの色やデザインはほぼ把握している。その日着る服を自分で服を選んで頂いたり、カットやヘアカラーに美容院へ行かれる方、お化粧を好む方にはできるように支援している。一緒に服を買いに行く事もある。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べられない物があれば、別メニューを提供している。食事作りは調理担当職員がしているがおやつと一緒に作ったり、野菜の下ごしらえ、味噌汁づくりを一緒にすることがある。盛り付けや下膳はできる方にはして頂いている。	行事食(流しそうめん・おせち、七草粥、かぼちゃのいとこ煮等)を取り入れている。おやつ(掘ったお芋でのスイーツ・干し柿等)を利用者と一緒に作ることもある。盛り付けや下膳は利用者とともにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は咀嚼能力に応じて、食べ易い形状にしたり、一人ひとりに合った量にし、様子を見ながら声かけをしたり介助したりしている。水分はお茶の時間を設けて好みの飲料を提供し、好みに応じて対応している。毎日の食事は記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは1日2回している。(朝・夕又は昼・夕)必要な方は毎食後行っている。声かけだけでできる方、用具を手渡す方、介助の必要な方等本人の能力に応じた介助をしている。義歯は每晚洗浄液で洗浄している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用と、申し送り等で排泄時間や排泄のサインを把握して声かけやトイレ誘導をし、できるだけトイレで排泄できるようにしている。	排泄チェック表と申し送り等で、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。各部屋にトイレはあるが、必要に応じてポータブルトイレも利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝はバナナとヨーグルト、又野菜の多い食事を摂って頂いている。個々の排便状況を把握し、個々に応じて、水分補給、野菜ジュースや冷たい牛乳の提供、散歩や歩行練習等の運動、緩下剤の調節をしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員体制により入浴時間帯、入浴日は個々の希望に添ってできないが、体調や希望により変更し、柔軟に対応している。入浴中は個々のペースでゆっくり快適に入浴していただけるようにしている。	入浴は、週3回午後となっている。1階は大浴場で、2階は家庭風呂となっている。重度の方の入浴時には、2人介助で入浴してもらっている。季節ごとに、柚子風呂や菖蒲湯等の入浴を取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調に応じて居室で休んで頂いている。夜間は安眠できるよう寝具、室温、明るさ等に配慮し安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての利用者の薬を完全に把握することは難しいので、説明書をファイリングいつでも確認できるようにしている。薬の変更や臨時薬は申し送りで情報を共有している。服薬介助は記録し確実にしている。薬の変更時は様子観察を行い、主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じて出来ること、得意なことで役割を担って頂いている、楽しみごとは歌の会や四季折々の行事等全体で行なうものや、読書、散歩、お茶、百人一首等独自の楽しみをケアプランに組んでいる。個別の菓子や副菜を常備している方もある		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそってではできないが、観梅、花見、紅葉狩り等の季節の行事や外食、喫茶、買い物や散歩などできるだけ外出する機会をつくっている。又、家族とお墓参りや、食事、旅行に出かけられる方もある。	その日の希望にそってではできないことがあるが、買い物、外食、喫茶店に出掛けている。季節の行事(花見・紅葉狩り等)に出掛けている。ご家族とお墓参り、食事、旅行に出掛ける方もおられる。	ユニット目標でもある「個別ケアの充実ー外出の機会を多く持つ」を達成するために、利用者の希望にそった日常的な外出ができるようになれることを期待します。

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は財布を持ち、買い物の時は自分で支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかけたり、手紙を出したり、年賀状を書いたりして頂いている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広さや構造上の制限があるので、温度調節や換気に気をつけ生活環境を整え、季節の花を飾ったり置物、飾り付け、窓から見える花木やプランターの花など季節を感じ居心地よく過ごして頂け様に工夫している。リビングの壁飾りを月毎に変えているユニットもある	1階のユニットは、ディサービスのスペースに隣接しているのでディサービスの利用者とも交流できる。2階のユニットは、回廊があり、外に行けない日は歩行などの運動ができる。窓から光が入り、明るい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の中で、廊下の一角に椅子や長椅子を置いたり、玄関スペースに椅子やソファを置いている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時できるだけ馴染みの物(タンス・机・仏壇・飾り物)を持ってきていただくようにしている。又、それぞれの方毎に絵や手芸などのご本人の作品、家族の写真を飾ったりしている。テレビや冷蔵庫を置いている方もある。	どの部屋も利用者個別に応じた工夫がなされ、その人らしい居室を作り上げている。仏壇・筆筒・テレビ等、好みの物や馴染みの物が置かれ、利用者の作品、家族の写真等が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ・風呂等分かり易いように、字を大きくしたり、個別の表示をしたり、言葉を選んで表示するなど工夫している。廊下には不必要なものを置かないようにしている		

基本情報

事業所番号	2871100984		
法人名	株式会社はーとふるセゾン		
事業所名	はーとふるセゾン宝塚		
所在地	兵庫県宝塚市中筋5丁目17-17 (電話) 0797-89-9000		

【情報提供票より 平成24年1月16日 事業所記入】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 8 月 15 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	26 人	常勤	14人, 非常勤12人, 常勤換算21.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての1・2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	管理費 35,000 円
敷 金	有 (480,000) 円 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,170 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	26名	男性	2名	女性	24名
要介護1	6	要介護2	4		
要介護3	9	要介護4	6		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 89 歳	最低	82 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	くさかベクリニック・福田歯科医院・今泉眼科・東宝塚さとう病院・宝塚第一病院・宝塚市立病院
---------	--